

いつも一緒 富山のハットたち

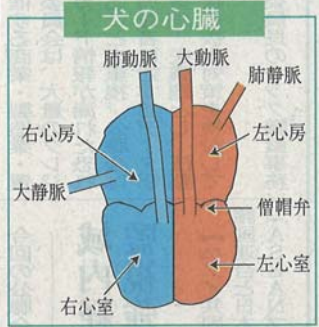
「今日はワクチン接種にきました。体は至って元気です」「聴診しますね。ん？少し雑音があるな。僧帽弁閉鎖不全症の疑いがありますね」。先日、動物病院に7歳の犬を連れて来た女性との会話です。



後坊動物病院院長 (砺波市平和町) 後坊 立

犬の正常な心音は「ドッ」という低く大きい音と「クン」という高く小さい音から構成され、この二つの音が短い間に続けて聞こえ「ドックン」という音になります。僧帽弁閉鎖不全症は、「ドッ」と「クン」の間に「ザーン」という雑音が入り、全体として二つの音のように聞こえます。この「ザーン」という音は、心臓にある弁の異常で血液が逆流し、発生します。

心臓の構造についてお話ししましょう。心臓は四つの部屋に分かれていて、体の中で使われた血液は大静脈から心臓に入り、右心房、右心室の順に通って肺に流れます。肺で酸素を取り入れた後、左心房に戻り、左心室を通じて大動脈の順に循環します。



僧帽弁閉鎖不全症

心臓には、各部屋にドアのような仕切りをする弁があります。血液が押し出されると自動的に弁が閉まり、血液の逆流を防いでいます。僧帽弁は左心房と左心室の間の弁で、弁に異常が起きてきちんと閉まらず、血液が左心室から左心房に逆流してしまいます。僧帽弁閉鎖不全症と言います。僧帽弁が厚くはれたまじりになり、うまく閉まら

心臓の異常音に注意を

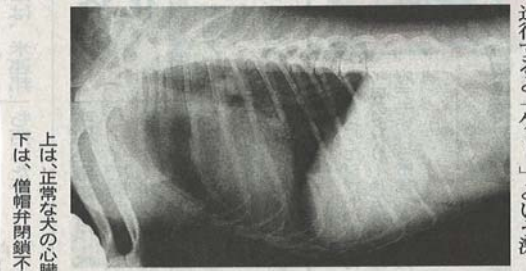
ないために起こります。弁の閉鎖がうまくいかないと、どんな悪い影響が出るのでしょうか。しばらくは、心臓が膨らんで血液の逆流を受け止めますが、やがて心臓の膨らみは限界に達し、全身にうまく血液を送れなくなります。

レントゲン写真では、僧帽弁閉鎖不全症の犬は、正常な犬に比べて明らかに心臓が大きくなっているのが分かります。この状態が続くと心臓は血液を送り出す機能が低下し、血圧が下がります。すると体は血管を収縮させ、血圧を上げようとします。長期的に見ると、この反応は心臓に負担を与えることになりま

す。しいせきをするようになり、元気がなくなります。さらに重症になると、肺に水がたまり、呼吸困難になります。先ほど述べたように、症状が進むと左心房が逆流した血液を受け止め、膨れてきます。せきが出るのは、膨れた左心房が、左心室のすぐ上にある気管支を圧迫するためです。左心室に血液がたまると、本

酸素を取り入れる肺胞という部位に血液の液体成分が入り込み、肺から十分な酸素を取り入れられなくなります。これを肺水腫と言います。そのせいで呼吸困難になるのです。僧帽弁閉鎖不全症が重症になると、血液を十分に送れないため全身が低酸素症になり、極端に元気がなくなってしまうま

す。を流れやすくするものなどがあります。完治はできませんが、病気の進行を遅らせることができます。薬の投与と同時に毎日の食事管理にも注意してください。塩分とカロリーの過剰摂取は心臓にとっても負担がかかります。心臓病の専用食があるので、動物病院で相談されることをお勧めします。



上は、正常な犬の心臓のレントゲン写真。下は、僧帽弁閉鎖不全症で肥大した心臓

初期の段階では、特に目立った症状は見られません。しかし、進行すると「ゲェー」という激

来、肺から心臓に戻ってくるはずの血液が肺にたまってしまい

僧帽弁閉鎖不全症の治療薬には、収縮した血管を広げて血液

「いつも一緒 富山のハットたち」は、毎月第1木曜日に掲載されます。